

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	さくら園グループホーム
訪問調査日	平成22年2月16日
評価確定日	平成22年4月5日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	さくら園グループホーム
所在地	鹿児島県大島郡知名町知名アギナ1949番地 (電話) 0997 - 93 - 0220

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価確定日	平成22年4月5日

【情報提供票より】(22年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15 人, 非常勤 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1		名	要介護2	6 名	
要介護3	9 名		要介護4	2 名	
要介護5	1 名		要支援2	名	
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 金連会 本部医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは同一法人の特別養護老人ホーム、デイサービス施設内の一角に位置し、風光明媚な場所にある。各居室が洗面所・トイレ付きで利用者のプライバシーや清潔が保たれ、広々とした共用空間もピカピカのガラス窓から採光を浴びて気持ち良い環境を提供している。おやつも職員の手作りが多く、島の伝統料理を大事にしている。職員・利用者の良い係わりができていからこそ、利用者は自然に「ありがとう」の感謝の気持ちを口にされ、それが職員の喜び・やりがいに繋がっている。職員一人ひとりがプロとして自覚を持ちながら、利用者の力を引き出すかわり、見守り、待つ介護支援が実施されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価に置いて3点改善項目があがっていたが運営推進会議以外は改善、努力が見られる。運営推進会議についても昨年はインフルエンザ流行の関係で、行政より催しに対して要請があり定期的な開催ができなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で項目ごとに時間をかけて話し合い、確認・反省しながらまとめている。自己評価、外部評価を受けることにより、職員の改善意識が共有でき、レベルアップに繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者代表、家族代表、地域代表、保健福祉課長、係長、理事長、施設長、主任相談員、看護職員、居宅ケアマネジャーなど、多職種の参加を得て開催している。会議では、ホームでの行事や取り組み、評価などの報告をしたり、メンバーからの意見をもらいサービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置したり、面会時、個人ファイルを開示し、情報を話しながら家族の意見・意向を引き出している。出された意見は送り帳に記載し、管理者に報告して話し合い、全職員が共有し、運営に反映させている。また、年1回、家族会を実施し、家族の意見を聞いて運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	買い物を通して地域と顔なじみになれるよう、挨拶や会話を心がけている。昨年は行事参加が少なかったが、月2回地域ボランティアの協力で島唄会を実施している。保育園児との交流会、消防署との訓練、婦人会の踊りや環境整備のボランティアを受けたり、町の行事に参加するなど地域住民との交流ができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者に充実した生活をして貰う為には地域、家庭、関係機関との連携が不可欠と云うことで、開設当初から地域社会との係わりを推進、支援する理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎年、事業計画資料に掲載し、職員研修会で朗読、説明をしている。会議室やホーム内にも掲示し、職員は理念を共有、日々実践に向けたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物を通して地域と顔馴染みになれるよう、挨拶や会話を心がけている。昨年は行事参加が少なかったが、月2回地域ボランティアの協力で島唄会を実施している。保育園児との交流会、消防署との訓練、婦人会の踊りや環境整備のボランティアを受けたり、町の行事に参加するなど地域住民との交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で項目ごとに時間をかけて話し合い、確認・反省しながらまとめている。自己評価、外部評価を受けることにより、職員の改善意識が共有できレベルアップに繋がっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、地域代表、保健福祉課長、係長、理事長、施設長、主任相談員、看護職員、居宅ケアマネジャーなど、多職種の参加を得て開催している。会議では、ホームでの行事や取り組み、評価などの報告をしたり、メンバーからの意見をもらいサービス向上に活かしている。		定期的な運営推進会議の開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町保健福祉課、地域包括支援センターとの連携や指導をもらっている。困難事例など相談し、指導、協力をもらい相互に良好な関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の個人記録を開示して説明し、家族の意見を聞きながら暮らしぶりや状態の報告をしている。島外の家族には写真を添えて封書で発送し、電話で利用者の声も聞かせている。金銭管理は出納帳と領収書を確認してもらい、サインを貰っている。職員の異動については面会時に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時個人ファイルを参考に情報を話しながら家族の意見、意向を引き出している。出された意見は送り帳に記載して管理者に報告し話し合い、全職員が共有し運営に反映させている。年1回家族会を実施し家族の意見を運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の交流を持って利用者へのダメージがないよう、顔なじみの関係を築いている。職員異動時はお別れ会をして異動の報告、理由を話して納得してもらうよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業計画の中に研修計画を立てている。外部研修にも参加し、復命研修報告して全職員の共有を図っている。島内の研修会には夜勤職を除いて職員の全員参加を図っている。法人内研修・内部研修も月2回実施している。資格支援もされ資質向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡、県の協議会に加入して各研修会に参加し交流を図っている。島内の相互訪問体験活動を行ない、ともに質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅訪問し家族と情報交換を行い、納得の上、利用開始となる。なじみの関係を作るために短期入所及びホームの見学、昼間の暮らしや食事の体験をしてもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>機能低下した利用者の手を握り励ますなど、落ち着きを取り戻すかかわりを大事にしている。不穏状態のとれた利用者とは島言葉で会話し、昔話や戦争体験談や島唄を教えてもらったり、踊ったり、好きなことに取り組んで貰うなど、笑顔をもって支え合う関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者の言葉や行動の気づきを「その人ノート帳」に記載し、本人本意の介護に活用している。日記を書いている利用者もいて日記帳に職員もコメントを書いたりし意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は担当者会議や職員会議で支援内容についての意見や気づきを話し、個人計画表で支援内容を考慮している。面会時に家族にも説明し、意見を貰っている。介護計画は利用者、家族、職員、主治医の意見を反映させたものを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化がなくても3ヵ月に1回はモニタリング、プラン修正、家族の評価を得て、見直しをしている。心身の状況変化に応じて随時、現状に即した計画作成をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診の通院介助を行なっている。また、墓参り、外泊、理美容院、衣料品店への送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望したかかりつけ医になっている。かかりつけ医の往診が月2回あり、利用者の健康管理の支援ができています。専門医への受診も家族の都合がつかない時は職員が同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始にあたり、家族にホームの重度化や終末期の方針を説明し、納得してもらい意向確認書をとっている。状態変化時にはその都度、家族の意思を確認し、関係者と話し合い方針を決定している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は洗面所、トイレ付で配慮ができています。年1回研修を実施している。一人ひとりのプライドを損なわないように利用者一人ひとりにあった言葉使い、方言で声掛けをしている。個人情報保護についても周知徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れとして決まりはあるが、その日の過ごし方や利用者のペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	BGMの島唄が流れる中で、食材の下ごしらえなどを笑顔を見せながら和気あいあいと準備している。メニューは法人の管理栄養士が利用者の希望を取り入れたもので、バランスのとれた色彩の良い盛り付けができています。会話しながら食事を楽しんでいる。時にはバイキングなども取り入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回となっているが希望があればいつでも対応している。入浴順をくじ引きで決めたり、浴槽の中で楽しみながらのリハビリを支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、お膳拭きや島料理の味付けをしてもらうなど、役割を持って生活している。楽しみごとには保育園児との交流や月2回実施している島唄会などがある。利用者は笑いの耐えないホールで唄や踊りを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良ければ島内の名所や思い出の場所、お墓参りなどへ外出支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、出入りは自由にできるようになっている。今は外出傾向の利用者はいないが、施設関係者、地域住民、警察などとの連携はとれている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回同敷地内の消防訓練に職員は参加している。グループホーム訓練は2回実施し利用者も一緒に避難方法を身につけている。同法人内の特別養護老人ホームには消防署に直接つながる通報機があり、備蓄もなされている。区長、法人の協力体制ができています。スプリンクラー取り付けも検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同敷地内にある特別養護老人ホームの栄養士がバランスのとれた献立を作成している。食事の摂取量、水分量のチェックも出来ている。水分摂取の少ない方にはアロエ茶、しょうが茶、黒砂糖入りのお茶や健康飲料水などで対応している。体重測定を月1回実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花、ホームの裏側にはアロエやパパイアの熱帯植物が目を楽しませてくれる。ホールの天井は高く、廊下、トイレや浴場も広く取っており、圧迫感がなくゆったり過ごせる空間になっている。リビングには昔の服や生活の道具を置いて昔を思い出す要素になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面所、トイレ付きで、居室の名称は花の名前と鳥の名前がつけられている。ベッド、タンスはホームのものでテレビやソファなど、なじみの物が持ち込まれ、家族の写真などを飾り、利用者が居心地よく過ごせる清潔感あふれる居室になっている。		